

新発田市 令和元年度 第6回定例記者会見

- 1 日 時 令和元年9月3日(火)午前11時～
- 2 場 所 ヨリネスしばた501会議室
- 3 内 容

○地震発生時における避難所開設基準の見直し

「在住外国人防災セミナー&交流会」

○「パラスポーツ出前講座」

○「城下町しばたスポーツフェスタ」

○「よねくら夏フェス」

たき火交流会 in あかたにの家

健康づくりフェスティバル

上三光稲刈り体験

新発田豊年秋まつり

ワークショップ「子育ては日々65点」

イクネスしばたおやこキッチン「親子でにぎにぎ!おにぎりランチ」

新発田市・胎内市・聖籠町定住自立圏婚活イベント

不動産フェア

マナビィフェスティバル2019

新発田市美術展覧会(市展)出品作品受付開始

新発田音楽文化協会定期演奏会

あいさつ

先日は、市民が最も熱くなる新発田まつりを無事終えることができました。新発田まつりは、別名「雨祭り」と言われるくらい、必ず雨にいたずらをされており、今年はおかげで、ほぼ順調に予定していたとおり開催できたということでもあります。

新発田まつりに限らずどこの祭りでもそうですが、一番大事なことは、不易流行だと思えます。変えてはいけないもの、一方では変わらなければならないもの、この2つが共存しないと伝統文化を含めて色々なイベントはうまくいかないのだろうと思えます。

新発田まつりは総鎮守の諏訪神社の大祭でありますので、万民安康、五穀豊穡を祈願する神事は変えてはならない大事なものでありますし、一方で毎年進化をさせていくことも必要です。

今年は、とりわけ花火大会が市民の皆さんからご好評をいただき、開催してよかったと思っています。市民の皆さんからも寄附をお寄せいただきました。長岡花火ほどの大迫力こそありませんが、お城をバックにしたシチュエーションからすると、オンリーワンの花火なのではないかと思えます。

市民の皆さんのおかげで、大変すばらしい新発田まつりを終えることができました。秋の収穫が、非常に楽しみだなあとと思っています。

それでは、会見項目を説明いたします。

最初に、「地震発生時における避難所開設基準の見直し」について

このたび、6月18日の山形県沖地震の発生を受け、市の避難所開設基準の見直しを行い、9月1日から運用を開始しました。

具体的な内容としては、指定避難所を自動的に開設する際の基準を、これまで「震度5強」としていましたが、これを拡大し、「震度5または津波警報・大津波警報が発令された場合」に変更しました。

併せて、これまで「震度5弱以上」の地震を観測した場合で、市が必要とした場合に、指定避難所を開設することとしていましたが、これを「震度4」の段階で、指定避難所の開設の可否を検討することにいたしました。

また、津波の被害を受けやすい沿岸部を有する紫雲寺地区や、新発田川放水路に隣接する佐々木地区、福島潟に隣接する豊浦地区における対策として、住民の皆様の不安を和らげるために、津波注意報が発令された場合は、これらの地区にある小・中学校6施設を自主避難所として、自動的に開設するなどの見直しを行いました。

これにより、もしもの時の備えを強化し、災害に強いまちづくりにつなげていきたいと考えています。

次に、「在住外国人防災セミナー & 交流会」について

もう一つ防災に関わる話題をご紹介します。

当市では初めて、そして、下越地方でも初めてであると聞いていますが、このたび、情報弱者になりやすい在住外国人の方向けの防災セミナーを、市の主催で開催することにいたしました。

6月に山形沖地震が発生しましたし、先日も、西日本を襲った台風や九州地方の豪雨もありました。最近では、本当に自然災害が多く、いつ新発田市がそうした災害に見舞われるか分かりません。

災害時には、行政が正確な情報を迅速に伝えること、そして住民がその情報を正しくキャッチし、的確な行動をとることが、命を守ることに繋がります。

このセミナーでは、在住外国人の皆さんに、避難生活に必要な防災グッズや防災食について、体験型で学んでもらうほか、お住まいの地域の皆さんとの関係を深めてもらうため、自治会関係者などにも参加いただき、交流会も実施します。

また、今回は、新発田日本語教室のご協力をいただいている関係で、生活圏である近隣市町にお住まいの外国人の方も対象としています。

すでに、中国やパキスタン出身の方からお申込みをいただいているそうがあります。災害時には、どこの国の出身などということは、全く関係ありません。命を守ることが一番であります。

今回のセミナーをもとに、在住外国人の方だけでなく、日本人の皆さんの防災意識の向上につなげてもらいたいですし、近隣市町との連携強化、そして、地域のきずなを深める良い機会としていただきたいと考えています。

次に、「パラスポーツ出前講座」について

当市では、ふるさと納税の寄附金などを活用し、障がい者スポーツの活動支援と普及促進に取り組んでいます。

このたび、その取組の一つとして、市内の小・中学校 8 校と特別支援学校 1 校の子どもたちを対象として、パラスポーツをテーマにした出前講座を開催することにしました。

開催にあたっては、新潟医療福祉大学の^{さこんしんべい}佐近慎平 准教授にご協力をいただき、車椅子バスケットボールやブラインドサッカーのほか、床のカーリングとも称される「ボッチャ」を子どもたちに体験してもらうことにしています。

出前講座をきっかけに、障がい者スポーツを体験することで、障がい者スポーツの普及促進はもとより、障がいそのものへの理解を深めてもらい、「心のバリアフリー」の更なる推進を図りたいと考えています。

次に、「城下町しばたスポーツフェスタ」について

9 月 29 日（日）に、毎年恒例の城下町しばたスポーツフェスタを開催します。

当市では、まちづくりの 1 つの柱として、今年度から「健康長寿」を掲げており、市民の皆さんにスポーツへの関心を高めてもらえるよう、さまざまな取組を行っています。

当日は、野球やサッカー、テニス、ラグビーなど様々なスポーツを体験いただけるほか、パラスポーツ体験や体力測定なども行うことができ、子どもから大人、そして高齢者まで、気軽にスポーツに触れてもらい、スポーツへの関心を深めていただける内容となっています。

また、今年は新発田青年会議所と連携し、100メートルに渡る大玉送りを行い、ギネス世界記録に挑戦するという、ユニークなイベントも企画しています。大玉送りに参加する場合は、事前の申込みが必要とのことです。

ぜひ、多くの方にご来場いただき、存分に体を動かしていただきながら、スポーツの秋を感じてもらいたいですし、健康づくりのために、皆さんの生活の中にスポーツを取り入れるきっかけにさせていただきたいと思っています。

次に、「よねくら夏フェス」について

9月7日(土)に、市内米倉地区で「よねくら夏フェス」が開催されます。米倉ふれあい農園を会場に、農園利用者と地元の方との交流会として始まり、バージョンアップを重ねながら開催してきたこのイベントは、今年で9年目を迎えるそうです。

今年から旧米倉小学校に会場を移し、農園の利用者はもとより、都市部の方と米倉地区の地元住民の更なる交流を深めるため、イベント内容の充実を図ったとのことでした。

当日は、昨年12月にヨリネスしばた札の辻広場を会場として開催した、「クリスマスイルミネーション」でもご活躍いただいた、本市出身のプロジェクションディレクター きしもとともや 岸本智也さん、また、米倉地区の方と交流のある、同じく本市出身でプロのパーカッション演奏家である あべしほ 阿部梓穂さんにご出演いただく予定にしています。

お二人には、体育館全体を使った映像と音楽をもとに、「米倉小学校の思い出」を振り返るアトラクションを企画していただいていると聞いています。

その他、米倉地区の伝統芸能を披露するなど、盛りだくさんのステージイベントが計画され、存分にお楽しみいただける内容となっています。

かつて地域の子どもたちの元気な声がこだましていた、旧米倉小学校ですが、今回は、地域住民のみならず、地域外の方にもおおぜいお集まりいただき、再び賑やかな声が広がるイベントになればよいと思っています。

次に、「たき火交流会 in あかたにの家」について

当市の地域おこし協力隊員が企画したイベントを紹介します。

9月14日(土)に、地域おこし協力隊員の活動や会場となる赤谷地区の魅力をもPRするため、「たき火交流会」を開催します。

参加資格は、「炎を囲む時間を楽しむこと」のみだそうです。赤谷地区の豊かな自然の中で、秋の夜空のもと「たき火」を眺めながら炎の温かさを感じ、語り合ってもらおう。そんなひと時を過ごしながら、参加者同士で交流を深めてもらうイベントです。

当日は、地域おこし協力隊員手づくりのスパイスカレーのふるまいもあると聞いています。

日頃、たき火を眺めながら、語らいの時間を持つという機会は、なかなか無いのではないのでしょうか。ぜひ、この機会に、多くの皆さんにご参加いただき、秋の一夜を楽しんでいただきたいと思います。

このほかの情報としては、市民の皆さんに健康づくりについて考えてもらうため、「健康づくりフェスティバル」を開催するほか、秋ならではの催しとして、「上三光稲刈体験」や「新発田豊年秋祭り」の話題があります。

また、子育て世代の方を対象にしたイベント、「ワークショップ・子育ては日々65点」「イクネスしばた おやこキッチン」などの情報があります。

さらには、文化の秋を感じてもらえる市展や音楽に関するものなど、たくさん話題があります。

一つでも多く記事に取り上げていただき、新発田を盛り上げていただきたいと思います。